

自己評価（前年度）

※「幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価」のチェック項目を用いて自己評価しています

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価			
データ 分析 表	データ表		データグラフ
	内容	項目数	
	「乳児保育」	15	
	「3歳未満児保育」	25	
	「3歳以上児保育」	0	
	「教育保育の配慮事項」	16	
	「健康・安全」	29	
	「子育ての支援」	18	
	「職員の資質向上」	9	
計	112		
平均	4.80		
総合 評価	<p>今年度は『繋がり』を大きなテーマとして掲げ、日々の生活やプロジェクト活動を通して、子ども同士の繋がりをはじめ、保護者、保育者、地域の方々との関わりを意識しながら教育・保育を行ってきた。また、これまで課題としていた地域との繋がりについては、地域貢献委員会を中心に取り組みを進めたことで、地域の方々に園へ足を運んでいただく機会を設けることができた。今後は、より気軽に立ち寄っていただけるような関係性づくりを継続し、地域に開かれた園づくりを進めていきたい。さらに、保育者一人ひとりが子どもの姿を丁寧に捉えながら、自身の保育を一年間振り返ってきたことで、子どもの興味・関心や育ちに寄り添った環境構成や援助について学びを深めることができた。今後も、子ども主体の教育・保育の実践に向けて、職員同士が対話を重ねながら、より質の高い保育を目指していく。</p>		

事業計画（今年度の重点目標）

項目	内容
子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	〔意欲ある職場環境〕年2回（4月9月）職員面談を行うと共に、月1回の環境・プロジェクト会議の中で意識的に語る場を増やしていく 【年間14回（前期7回 後期7回）】
子ども・高齢者・障害者との「信任」の構築	〔受容的環境の確立〕ケース会議を通して子どもの姿を振り返り、より良い人的・物的環境の在り方を検証し、継続的な改善につなげる 【年間12回（前期6回 後期6回）】
地域との「信認」の構築	〔地域への見える化・見せる化〕森のおうちにおいて地域の方々を対象とした写真展示を実施し、教育・保育の見える化を図る 【年間1回（前期0回 後期1回）】